1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470300506
法人名	有限会社 ホワイト介護
事業所名	グループホーム 北さんち
所在地 （電話番号）	鈴鹿市中旭ヶ丘4丁目6番8号 （電　話）059-380-1234

評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 10 月 30 日（ 木 ）

【情報提供票より】（H20年10月16日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 13 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人，非常勤 2人，常勤換算 7.5人	

（2）建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 階 ～ 2 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	45,000 円		その他の経費（月額）	22,000 円～
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（1,000,000 円） ただし連帯保証人をたてた場合50万円		有りの場合 償却の有無	有 ／ 無 退去時10万円償却
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

（4）利用者の概要（ 10 月 16 日現在）

利用者人数		9 名	男性	0 名	女性 9 名
要介護1		3 名	要介護2		3 名
要介護3		3 名	要介護4		名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均	85.8 歳	最低	72 歳	最高 94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	高木病院　鈴鹿厚生病院　ホワイト歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中学校に隣接した閑静な住宅地にあり、デイサービス、居宅支援事業が併設の開設8年目を過ぎようとするグループホームである。建物は2階建てで、利用者全員が集える食堂兼居間には「北さんち」のシンボルと言われている薪を燃やす本格的な暖炉があり、特に冬場はみんなが集まる憩いの場所になっている。暖炉の温かさは人の温かさを教えてくれると言われており、食後の食器拭きもみんなでするというように利用者全員の仲が良く、一緒のことをすることが多く大きな「家族」を思わせてくれる。「自分のことは自分で」を基本に「住み慣れた地域の中で、その人らしく暮らし続ける」ことを理念として事業展開をおこなっている。高齢者福祉に永年、熱意を持って取り組んでいる管理者層の下、職員の経験年数や職種に応じた研修計画も立てられており、職員・利用者共に明るく元気である。地域密着型グループホームのモデルとして今後も期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	管理者・職員ともに評価の意義・目的を良く理解して課題の検討・改善に努めている。前回の外部評価後、改善項目について話し合い、改善計画等は作ってないが、できるところから取組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価・外部評価を実施する意義を、管理者・職員ともに良く理解し全員で取組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	19年6月に第1回が開催されているが、その後の開催につながっていない。運営推進会議は外部の人の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合う、地域の理解と支援を得る貴重な機会である。定期的に開催し、事業所のサービスの質の向上に活かされることが望まれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	毎月1回、利用者一人ひとりの暮らしぶりや健康状態について、家族宛に手書きの便りを送っているし、家族の訪問時になんでも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。また昨年は経営会議でアンケートを行い、苦情や不満の有無を確認し、それらを運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	自治会にも加入しており、地域のお祭りや保育園の運動会にも参加している。また24時間人のいる事業所として、地域の防災倉庫の鍵を預かる等、地域との関係作りを大切にしている。

2. 評価報告書

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症があっても、人間らしく地域の中で孤立せずに、安心してその人らしく生きていけるよう「自分のことは自分で」という自律支援をすることを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「職員の気持ちでなく利用者の気持ちで支援するよう」職員会議や朝のミーティングで話し合っている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも入っており、地域のお祭りや保育園の運動会に参加しているし、24時間人のいる事業所として地域の防災倉庫の鍵を預かる等、地域との関係づくりを大切にしている。また隣の喫茶店「麦」へは利用者も頻繁に利用しており、地域の人たちとの接点になっている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義を良く理解している。前回評価の改善項目については、特に詳細の改善計画等は作ってないが全員で検討し、できるところから改善するように取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年6月に第1回運営推進会議が開催されているが、その後の定期開催につながっていない。	○	運営推進会議は外部の人の目を通して事業所の取り組みや具体的な改善課題を話し合う、地域の理解と支援を得る貴重な機会である。格式張らずに気楽に定期的に開催し、事業所のサービスの質の向上に活かされることが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは空き情報の他に、日頃の情報交換を頻繁に行っている。また統括施設長は市の地域密着型サービス運営委員会のメンバーであり、認知症についての研修会を開催したりして、市の担当者との関係作りを行っている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一回、利用者一人ひとりについて暮らしぶりや健康状態についての手書きのたよりを送っているし、面会時は利用者一人ひとりの様子を個々に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などが意見や不満・苦情を言いやすい雰囲気づくりに努めているが、不満や苦情は少ない。昨年は経営会議でアンケート調査を行い、苦情や不満の有無を確認している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動による利用者へのダメージを充分承知しており、異動がある場合は利用者と十分話をする等、ダメージを与えないよう努力している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	統括施設長が講師となって、職員の経験年数や職種に応じた研修計画が立てられ、職員のスキルアップが図られていると同時に、他事業所の人も参加でき、働きながらトレーニングされるようになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会に職員が交代で参加し交流の機会をもっている。また鈴鹿・亀山地区の小規模事業所とは年1回、合同作品展示会を開催しており、その準備会議だけでなく勉強会から親睦会まで頻繁な付き合いがある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 .					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人にできるだけ時間をかけて雰囲気に慣れてもらい、他の利用者や職員と顔見知りになってもらえるよう、併設のデイサービスの利用や数日間の体験入居ができるようになっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	夜の当直の時や料理作りのときなど、人生の先輩としていろんなことを教えてもらっているし、「利用者の皆さんと共に過ごしている」と実感しているとの職員の言葉もある。利用者と喜怒哀楽を共にし、利用者自身も意見が出せる場面作りの支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から思いや暮らし方の希望や意向の把握に努力しているし、今年は利用者・家族対象に満足度調査も行い、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの状況を把握し、本人、家族、主治医の意見や希望を聞き、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月職員は対象となる利用者についての意見を出し、詳細時間をかけ検討する仕組みになっている。基本的には3ケ月ごとの見直しにしているが、多少遅れ気味である。利用者の状態の変化に応じて、随時見直しを行っている。	○	利用者は安定し変化が見られない場合が多いが、月に一度は「点検」の意味を含め、新鮮な眼で本人や家族の意向を確認し、変化の兆しをつかんでいただくことを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お墓参りや初日の出を拝みに出かけたり、お伊勢さん参りも計画されており、本人や家族の要望には柔軟に対応するよう努力している。また統括施設長が講師となって行う研修は、法人内職員だけでなく地域の事業所も参加できるようになっている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としており、受診の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人や家族に、重度化した場合や終末期の対応についての意思の確認を行っている。すでに4名の看取りの経験がある。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩であり、尊敬の念を持って対応しており、言葉かけや対応には十分注意している。また個人情報の保護も良く理解して支援しており、個人名や記録の漏洩のないよう注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく、利用者一人ひとりのペースを大切にして、日々その人らしい暮らしができるよう支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員が準備するが、夕食については、その日の朝何を食べたいかを話合って決め、食材を買いに行き、下拵えや味見、盛り付けや片付けなど職員と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者各人の希望に沿った時間が前提だが、夕食前と後の時間帯に入る人が多くなっている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の部屋の掃除や洗濯物は自分でする方もおられるし、洗濯物たたみや食器拭きを職員と一緒にみんなで行っている。又生活歴やその人の力に応じて、畑仕事や年一回の作品展にむけての準備等、楽しみごとの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接した団地の中にある公園に出掛けたり、近隣への散歩や外食、買い物は日常的に行っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	代表者・管理者・職員ともに鍵をかけることの弊害を良く理解しており、玄関はもちろん共有スペースや居室・庭園への出口には全て鍵はかけられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	これまで災害訓練は事業所として実施されていなかったが、来る11月4日に避難、通報、消火について法人内訓練を行う予定になっている。	○	11月4日の訓練は、ぜひ計画通りの実施を期待したい。また運営推進会議を通じての自治会や地域の人々の協力を得られるような働きかけもお願いしたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	元在籍した管理栄養士による献立表を基に、各人に合った栄養バランスや摂取量に配慮したメニューづくりをしている。摂取量は個人記録しているし、水分確保の支援もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所に接した食堂兼居間には薪を燃やす本格的な暖炉があり、冬場は格好の団欒の場になっている。訪問時はまだ冬ではないので使用されてなかったが、「暖炉がある」だけで高級感ただよう落ち着いた雰囲気が感じられ、朝から夜寝るまでのほとんどの時間、ここで過ごされる利用者が多い。2階廊下の突き当りが東向きで日当たりも良く、隣接の中学校が良く見えるので、利用者の居心地の良い季節を感じるスペースになっている		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はできるだけ今まで使い慣れた家具類を持ち込み、利用者の好きなように配置してよく、各居室ともそれぞれ個性的な居心地の良い部屋づくりがなされていた。また家族の顔を忘れないようにという管理者の配慮から、各室とも家族の写真が多く飾られている。		